



機械科生徒が「船舶工学・船舶製造」について講義を受けました。

平成 30 年 12 月 25 (火) に新潟造船より工作部長 清野様を講師として派遣いただき、「船舶工学・船舶製造」について、講義をしていただきました。



講義風景

講義内容

- ・ 受注契約前の客先打合せ
- ・ 受注後の仕様決定
- ・ 図面製作 (設計)
- ・ 船殻工事
- ・ 艀装工事
- ・ 海上試運転 (公試)
- ・ 竣工 (引き渡し)
- ・ 出港

社内資料を基に、船舶製造の流れを講義してもらいました。



【スキルアップシートより】

- ・ 船の製造に興味を持つことができた。
- ・ 船は機械だけでなく配管や配線なども必要。
- ・ 機械だけで材料の加工ができていないわけではない。細かい部分では人間の手によって加工されている。
- ・ 船が完成して出港するとき従業員の方は感動するという話が印象に残った。
- ・ NC の技術が船の製造にも行う作業だったので、学校の実習は将来仕事をするにあたって大事だということが分かった。
- ・ 動画を見ながらの説明だったのでわかりやすかった。
- ・ 出港するときに思わず泣いてしまう人もいると聞き、船に対する熱い想いが伝わった。
- ・ 溶接技術がかなり多くを占めている。
- ・ 進水はすべての工程が終わってからやと思っていたが艀装前に行くことを初めて知った。
- ・ 船の製造に 1 年半かかる。
- ・ ブロックをいくつかにわけて組み立てることが分かった。
- ・ 船の底の赤い塗装の意味とすこしづつ溶けていくことを知った。
- ・ 様々な工程があり、熟練しないとできない工程が多い事を知った。
- ・ 昨年の工場見学を思い出しながら講義を聴いたので思い出しながら理解できた。
- ・ 船は機械だけでなく電気についての知識も必要なことがわかった。
- ・ 船には居住もできないとメンタルがなくなるので、家と同じように住める構造にすることなどを知った。
- ・ どの工程も想像以上に人間が関わっていて手作り感を感じた。
- ・ お客様の要望に応えたいという思いが感じられた。
- ・ 船の完成までの工程がわかった。

【職員の感想】

造船関連企業と連携し、船体製造について、動画を採り入れ、実物を考え、昨年の工場見学を思い出しながらの講義で、船体製造技術に関心・意欲を高めることができた。